

年末年始の旅客輸送等の動向について

1. 鉄道

(1) JR（平成18年12月28日～平成19年1月4日）

JR旅客6社の年末年始期間(12月28日～1月4日の8日間)の主要50区間輸送実績は、利用者が5日以降に分散したことなども影響して、前年をやや下回り896万9千人となったが、期間中大きな輸送障害等もなく順調に推移した。

JRグループ主要区間における新幹線・特急・急行列車の輸送実績(上下計) (単位:万人)

	H18.12.28(木) ～H19.1.4(木)	H17.12.28(水) ～H18.1.4(水)	前年比 (%)
JR北海道 (4区間計)	31.0	31.5	99
JR東日本 (18区間計)	351.8	351.8	100
うち東北新幹線 (注1)	159.4	160.1	100
上越新幹線	82.9	85.1	97
長野新幹線	24.1	24.3	99
秋田新幹線	7.9	8.4	95
山形新幹線	10.9	10.7	102
JR東海 (10区間計)	257.9	258.4	100
うち東海道新幹線 (注2)	239.2	(非公開)	100
JR西日本 (11区間計)	193.9	196.1	99
うち山陽新幹線	117.0	(非公開)	99
JR四国 (3区間計)(注3)	11.3	11.4	99
JR九州 (4区間計)	51.0	51.3	99
うち九州新幹線	8.1	8.4	97
合計 (50区間計)	896.9	900.5	100

※ 対前年同日比較

※※ 輸送人員は各区間の断面輸送量

※※※ 合計値、前年比は、端数処理、四捨五入の関係で合致しない場合がある

(注1) 大宮～宇都宮・古川～北上・盛岡～八戸の合計値

(注2) 小田原～静岡(のぞみ・ひかり)・新横浜～小田原(こだま)の合計値

(注3) 瀬戸大橋線を除く

(出典) JR各社発表資料より抜粋

(2) 大手民鉄（平成18年12月31日～平成19年1月3日）

大手民鉄16社の年末年始期間(12月31日～1月3日の4日間)の定期外旅客輸送実績は、天候が比較的穏やかであったこともあり、前年に比べて149万7千人増の3,016万人と好調であった。

地域別では、関東9社が1,859万3千人(対前年比5.8%増)、関西5社が881万8千人(同3.3%増)となった。

大手民鉄の定期外旅客輸送実績

(単位:千人)

	H18.12.31(日) ～H19.1.3(水)	H17.12.31(土) ～H18.1.3(火)	前年比 (%)
16社 合計	30,160	28,663	105.2
うち 関東9社 (注1)	18,593	17,575	105.8
うち 関西5社 (注2)	8,818	8,534	103.3

※ 対前年同日比較

(注1) 東武、西武、京成、京王、小田急、東急、京急、東京メトロ、相鉄

(注2) 近鉄、南海、京阪、阪急、阪神

(出典) (社)日本民営鉄道協会発表資料より抜粋

2. 国内航空（平成18年12月28日～平成19年1月8日）

国内航空の年末年始期間(12月28日～1月8日の12日間)の輸送実績は、前年に比べて11万7,800人増の333万7,400人と堅調に推移した。スカイマーク及び北海道国際航空は、路線再編や供給増により輸送実績を伸ばした。スカイネットアジア航空は、他社とのコードシェアに伴い旅客数が減少したが利用率は向上した。

方面別では、日本航空の中国・四国方面が前年比10.4%増加したほか、全日空の沖縄方面が前年比12%増と高い伸び率となった。

国内航空の輸送実績(上下線計)

(単位:千人)

	H18.12.28(木) ~H19.1.8(月)	H17.12.28(水) ~H18.1.8(日)	前年比 (%)
日本航空 (注1)	1,538.8	1,525.2	100.9
全日本空輸	1,553.5	1,509.4	102.9
スカイマーク	117.9	85.3	138.3
北海道国際航空	58.9	55.6	105.9
スカイネットアジア航空	41.9	44.1	(注2) 95.0
スターフライヤー	26.4	—	—
合計	3,337.4	3,219.6	103.7

※ 対前年同日比較

(注1) 日本航空、ジェイ・エア、ジャルエクスプレス、日本トランスオーシャン航空、琉球エア・コミューター、日本エアコミューター、北海道エアシステムの合計値

(注2) 他社とのコードシェアに伴う減

(出典) 航空各社発表資料より抜粋

(参考) 日本航空(ジャルエクスプレスを含む)方面別輸送実績(上下線計)

	北海道	東北・北陸	関西	中国・四国	九州	沖縄
旅客数(千人)	350.5	136.9	144.4	155.5	382.4	202.7
前年比(%)	96.3	97.8	96.3	110.4	101.4	103.4

(参考) 全日本空輸方面別輸送実績(上下線計)

	北海道	東北・北陸	関西	中国・四国	九州	沖縄
旅客数(千人)	300.6	149.0	144.0	242.6	460.8	239.9
前年比(%)	96.7	107.7	102.9	100.3	103.0	112.0

3. 国際航空(平成18年12月28日~平成19年1月8日)

国際航空の年末年始期間(12月28日~1月8日の12日間)の輸送実績は、景気の回復や旅行需要の高まりなどを背景に、前年比2.8%増の68万4,200人となった。日本アジア航空、全日空及びエア・ニッポンは新規路線や供給増などにより前年を大幅に上回った。日本航空は、供給減に伴い旅客数が減少したが利用率は向上した。

方面別では、日本航空は、中国、東南アジア、韓国方面が好調で、特に中国方面が前年比130.9%と大幅に増加した。全日空は、リゾート線を除く各方面が好調で、特に、中国及び北米方面が20%を超える高い伸び率となった。

なお、主要国際空港の年末年始期間(12月28日~1月8日の12日間)の出入(帰)国者数は、成田国際空港が97万8,400人(前年比5.5%増)、中部国際空港が18万1,100人(同4.6%増)、関西国際空港が39万9,900人(同3.4%増)と各空港とも前年を上回り、合計で前年に比べて7万2,000人増の155万9,400人となった。

国際航空の輸送実績(日本発着ベース)

(単位:千人)

	H18.12.28(木) ~H19.1.8(月)	H17.12.28(水) ~H18.1.8(日)	前年比 (%)
日本航空 (注1)	474.6	479.0	99.1
日本アジア航空	44.7	39.7	112.4
全日本空輸 (注2)	153.8	139.3	110.4
エアーニッポン	11.1	7.3	152.1
合計	684.2	665.3	102.8

※ 対前年同日比較

(注1) ジャルウェイズを含む

(注2) エアージャパンを含む

(出典) 航空各社発表資料より抜粋

(参考) 日本航空(ジャルウェイズを含む)の方面別輸送実績(日本発着ベース)

	ハワイ	米大陸	欧州	アジア	オセアニア	グアム	韓国	中国
旅客数(千人)	71.0	40.0	43.2	131.7	28.7	23.4	67.7	68.8
前年比(%)	92.4	73.2	90.4	105.6	97.4	85.4	103.3	130.9

(参考) 全日本空輸(エアージャパンを含む)の方面別輸送実績(日本発着ベース)

	北米	欧州	中国	アジア	リゾート※
旅客数(千人)	23.3	17.8	48.2	52.5	11.9
前年比(%)	121.2	102.5	128.9	106.1	75.6

※ ハワイ、グアム

(参考) 主要国際空港の出入(帰)国者数(速報値)

(単位:千人)

	H18.12.28(木) ~H19.1.8(月)	H17.12.28(水) ~H18.1.8(日)	前年比 (%)
成田国際空港	978.4	927.6	105.5
中部国際空港	181.1	173.2	104.6
関西国際空港	399.9	386.6	103.4
合計	1,559.4	1,487.4	104.8

※ 合計値、前年比は、端数処理、四捨五入の関係で合致しない場合がある

※※ 平成18年度は速報値、平成17年度は実績値

(出典) 成田国際空港(株)、名古屋入国管理局中部空港支局、大阪入国管理局関西空港支局発表資料より作成

4. 国内・海外旅行（平成18年12月27日～平成19年1月3日）

主要旅行業者5社の年末年始時期(12月27日～1月3日の8日間)の募集型企画旅行の取扱旅行者数は、景気の回復や海外情勢の安定化などを背景に、海外旅行が前年に比べて1万4,400人増の13万8,400人と好調であった。国内旅行は1万9千人減の90万人となった。

主要旅行業者の募集型企画旅行取扱旅行者数

(単位:千人)

	H18.12.27(水) ～H19.1.3(水)	H17.12.27(火) ～H18.1.3(火)	前年比 (%)
国内旅行(注1)	900.0	919.0	97.9
海外旅行(注2)	138.4	124.0	111.6

※ 対前年同日比較

(注1) ジェイティービー(グループ13社)、近畿日本ツーリスト、日本旅行、阪急交通社、ANAセールス

(注2) JTBワールドバケーションズ、近畿日本ツーリスト、日本旅行、阪急交通社、エイチ・アイ・エス

(出典) 国土交通省資料

5. 高速道路（平成18年12月27日～平成19年1月4日）

全国の主な高速道路の年末年始時期(12月27日～1月4日の9日間)の利用状況は、日平均で、東日本高速道路株式会社が、前年に比べて1万8,423台増の118万5,819台、中日本高速道路株式会社が、前年に比べて3万594台増の111万8,502台、西日本高速道路株式会社が、前年に比べて3,597台減の145万1,658台となり、全体では、前年に比べて4万5,420台増加して375万5,979台となった。

東日本高速道路(株)高速道路利用台数(日平均)

(単位:台)

	H18.12.27(水) ～H19.1.4(木)	H17.12.27(火) ～H18.1.4(水)	前年比 (%)	
高速道路計	1,185,819	1,167,396	101.6	
主な 道 路	道央自動車道	69,434	67,171	103.4
	東北自動車道	237,892	235,294	101.1
	常磐自動車道	159,296	156,385	101.8
	東関東自動車道	148,439	148,654	99.9
	東京外環自動車道	134,205	131,787	101.8
	関越自動車道	169,943	167,841	101.3
	北陸自動車道(注)	40,091	38,841	103.2

※ 対前年同日比較

(注) 朝日IC～新潟中央JCT間の利用台数

(出典) 東日本高速道路(株)発表資料より抜粋

中日本高速道路(株)高速道路利用台数(日平均)

(単位:台)

		H18.12.27(水) ~H19.1.4(木)	H17.12.27(火) ~H18.1.4(水)	前年比 (%)
高速道路計		1, 118, 502	1, 087, 908	102. 8
主 な 道 路	東名高速道路	394, 632	386, 549	102. 1
	名神高速道路	63, 327	60, 910	104. 0
	中央自動車道	212, 288	204, 215	104. 0
	東名阪自動車道	197, 446	198, 959	99. 2
	北陸自動車道	83, 373	79, 063	105. 5

※ 対前年同日比較

(出典)中日本高速道路(株)発表資料より抜粋

西日本高速道路(株)高速道路利用台数(日平均)

(単位:台)

		H18.12.27(水) ~H19.1.4(木)	H17.12.27(火) ~H18.1.4(水)	前年比 (%)
高速道路計		1, 451, 658	1, 455, 255	99. 8
主 な 道 路	名神高速道路	171, 785	173, 503	99. 0
	西名阪自動車道	170, 732	171, 794	99. 4
	近畿自動車道	126, 691	127, 827	99. 1
	中国自動車道	127, 229	127, 703	99. 6
	山陽自動車道	159, 017	158, 929	100. 1
	高松自動車道	33, 690	32, 675	103. 1
	松山自動車道	43, 613	43, 219	100. 9
	九州自動車道	216, 154	213, 267	101. 4
	長崎自動車道	53, 931	53, 828	100. 2
	阪和自動車道	120, 832	131, 133	(注) 92. 1

※ 対前年同日比較

(注) 料金徴収体系の変更に伴う減

(出典)西日本高速道路(株)発表資料より抜粋